

令和5年度第2回「関西広域産業ビジョン」推進会議 概要

- 【日 時】 令和6年3月27日(木)15時から16時30分
【場 所】 立命館大学 大阪梅田キャンパス 5階 多目的室
【出席者】 別添名簿のとおり

【議 事】

- (1) 令和5年度広域産業振興局事業の実績報告及び期末評価について
(資料1)
- (2) 令和6年度広域産業振興局事業について(資料2)
- (3) 「関西広域産業ビジョン」推進会議の開催方針について(資料3)

【委員からの主な意見】

(1) 令和5年度広域産業振興局事業の実績報告及び期末評価について

- ・ ポイントは、各事業が適切に実施されているのか、またそのパフォーマンスがどうだったかを議論し、次のヒントとすることにあると思われる。
- ・ ライフサイエンスやカーボンニュートラルの事業で定量的な評価としてマッチング件数があるが、その後どうなったのかをフォローすることが重要。どの時点までフォローするのは難しいところだが、事業化に向けて次の段階に繋がっているかを把握していることは事業効果の測定になる。次年度以降もこの観点から、効果把握をお願いしたい。
- ・ 参加者の声等も評価資料に書き込まれており、わかりやすくなった。定量評価はアウトプットに加えて、可能な範囲でアウトカムもあれば良い。例えば、医療機器分野の参入促進であれば、実際に参入した企業売り上げ等。
- ・ 関西広域産業共創プラットフォーム事業は相談件数が100件を超え、大きな成果がでていると考える。相談件数のみならず実ビジネスへつながったのかの観点でも評価を進めていくべき。公設試のニーズをしっかりと聞いて対応することが重要。また、事業間でも連携を進めていくべき。公設試が関わられる事業分野は広い。

DXは関西経済連合会や近畿経済産業局など様々な機関で取組をしてい

る。関係機関同士の連携を図ることで、関西全体に大きな効果が出るのではないか。

- ・ 実際のビジネスへの展開をトレースすることが望ましいが、単年度では難しい。複数年度で事業実施した際には成果を累積的にみる仕掛けが課題である。
- ・ プロモーションを国内外やっていくのは時間も手間もかかるが、事業者にとっては販路に繋がっていくかというところが大事。
- ・ 各事業の周知がどの程度できているか。広域連合のホームページ等での広報の他に、より広げるためにどのような周知をしているか。継続事業については情報が届いた数はどうだったのかを確認することで、広域連合の活動が広く知られているかの評価ができる。これまで把握していないのであれば今後の事業では把握に努めてもらいたい。
- ・ この会議で予算を議論する際には、訴求先を記載してはどうか。予算のコスパを上げていくためにも、誰に訴求するのかという点が重要であり、そういうところも工夫していかないといけない。

(2) 令和6年度広域産業振興局事業について

- ・ 予算も限られていることもあり、効果の低い、あるいは広域連合でやる意義が小さい事業は廃止し、より効果の高いものに振り分けていくのは合理的な判断である。
- ・ 事業がビジョンとどのように結びつくかがはっきりしていない。これらの事業を行うことで、ビジョンの実現にどのくらい近づけるか。
- ・ セミナー開催について、令和5年度はDXをテーマに実施しているが、広域連合がセミナーそのものを開催するのではなく、各支援機関が実施するセミナーをうまく連携しながら、必要な人に提供するというような方法も一つのやり方としてあるのではないか。
- ・ 海外産業プロモーション事業について、2025年の万博で来日する海外企

業の関西への誘客が必要。いわゆるMICEであり、イノベーションを創出するような周遊が大事。

- ・ 万博の大阪ヘルスケアパビリオン出展予定のリボーンプロジェクトに連合がシンクロするような取組はどうか。省庁間のプロジェクトと連携することも大事。万博関連事業のものづくりアート展、日本酒イベントでどのように特色を出すのか。他の組織との連携も意識しながら、やるからにはめだって頑張っ
て欲しい。情報をしっかり集めてコスパを高めていくことが重要。
- ・ 全体的に広域連合の独自事業だけでなく、協調事業を増やして、広域的に協力していこうという動きは望ましい。各協調事業は事業主体としては単体で実施されているが、これも将来的には、県と県が連携して実施するようなところまでいけたら良いのではないかと思う。また、スタートアップは各主体がバラバラに取り組んでいる状況であり、外から見ると見えにくい。広域連合でまとめるのは良い動きである。
- ・ 広域経済、それから経済振興を考えていく上で重要なのは人材。もう既に事業活動に支障があるところも出てきており、どうしていくかは共通の課題。各自治体で様々な取組があるが、経済界も含めて何が一緒にできるのかというところも考えていけたらいいと思う。
- ・ 各事業で目標として指標を挙げているが、多いのか少ないのか分からない。数字を見ただけでは事業が成功したかの判断は難しい。また、関西広域と言っているながら実際に広がりを持っているのか。いかにして広報活動をするかも大事。商工会議所や商工会を通じた情報発信に関しても、もっと早くからやっていくことができたのではないか。毎年このような形で各事業を進めているが、広がりが少ないのではないか。

万博関連事業については、万博の盛り上がりは現状大阪だけで、近畿一円ではほとんど広がりを持っていない。その辺も踏まえて広報活動を進めて欲しい。